

# Classica Grammatica Latina 和訳問題解答（後半）

著 LED（2014年度入学理科一類七組）

2015年某月某日

## 前書き・注意

このシケプリもどきは、井上教官による古典語初級（ラテン語）で用いられている教科書、「Classica Grammatica Latina」の章末練習問題の和訳問題のみの解答集です。

冬学期分だけなので**13課以降しかありません**。前半も utaisaku に上げてあるので夏学期（そのうちこの言い方無くなっちゃうんですかね）履修してる方はそちらへ。

注意についても前半と同様なので割愛します。

## § 13

1. カティリーナにとってキケローが殺されることは重要だった。  
※日本語が怪しいが、interficiが受動態の対格不定法をとっていることをアッピル。Cicerōnemは不定法の主語。
2. テーバイ族はポリュネイケースの遺体を土で埋めることを許されていなかった。
3. 君は義務を疎かにしてはならない。
4. 私は自分の愚かさに怒りだけでなく恥も感じている。
5. 病気にかかった者には医者が必要だ。
6. 平和という名は甘美だ。  
※昨日あたりに安保法案が通されたのでごくタイムリーだなあと。Dulce bellum inexpertis.  
「経験無き者にとって戦争は甘美である」という格言もある。
7. 悪人を許す者は善人を害する。
8. 若者たちはしばしばオリュンピア競技会で、自身と自身の部族に大きな名声をもたらした。
9. アルロブルゲル族にとって自由を失ったのは悲しいことであった。というのも彼らは自由を熱望していたのだ。
10. 両親を愛するのが我々の務めだ。
11. 子供の両親への愛情は見返りを求めない。
12. 人民の暴君への憎しみは正当だ。  
※「暴君の人民への～」でもまあ。まあ。

13. マルクス・ポルキウス・カトーは毒舌だった。
14. ローマ人たちは兵器、戦争、そして戦闘を愛していた。彼らは兵器にも戦争にも戦闘にも精通しており、勝利を熱望していた。
15. 君たちのうちの誰が我々を覚えているのだ？
16. ローマ人たちには小さな剣と大きな楯があった。
17. 私は君たちの記憶をいつまでも留めておこう。
18. アウグストゥスの時代、ローマ帝国には堅実な平和があった。アウグストゥスの良い法律は市民たちにとって安全であった。
19. カエサルという名はゲルマン人にとって最高の威厳を持った名前となった。
20. 君の損になるものは君の敵たちにとって喜ばしいだろう。
21. 何をするのだ？  
※ mihi は関心の与格と思われるが、「私に」と訳出しても良い気がする。
22. アテーナイ人ミルティアデースは裏切りの罪で告訴された。死刑は免除されたが、多額の罰金を負わされた。  
※ Athēniēnsis は性質の属格または Miltiadēs と同格の主格。
23. 叫ばないでくれ。  
※ 関心の与格…かな…。
24. 航行する者にとって、静止している物は動いているように見える。  
※ ea は中性複数なので、「静止している者」とはしない方が良い。
25. 怠け者の価値は少ない。一文にも値しない。

## § 14

1. 先生が少年たちに文学を教える。
2. カエサルは深さ 15 フィートの堀を引き、それらの高さ 12 フィートの防柵を築いた。
3. カエサルは騎兵の大部分に川を渡らせた。
4. 元老院には外国の氏族の要人たちを、ローマの市民に対する大きな功績によって、友人や仲間と呼ぶ習慣があった。  
※ magnīs は meritīs を修飾する。
5. 若者たちは体育学校で、様々な方法で互いに競い合っていた。  
※ 古典ラテン語では前置詞句が形容詞的に働くことはあまりなかったそう。
6. 下女たちは女主人の賞賛に非常に喜んだ。

7. カティリーナは高貴な家柄の生まれで精神力も体力も強かったが、品行は悪かった。  
※ *vī* と *mōribus* は性質の奪格で、*animī* と *corporis* は *vī* にかかる属格。
8. ゲルマーニアは見た目においてイタリアと大きく異なる。
9. カエサルは適切な場所に戦列を築いた。
10. コルネーリアは最高の賞賛に値する。
11. 包囲された街の住人達は早急な援助を必要としていた。
12. 街全域で家と神殿が燃えていた。
13. ガリアの住人達は言語も風習も法律も互いに異なっていた。
14. エピダウロスはアエスクラーピウスの有名な神殿で賑わった。  
※ *Epidaurus* は第二変化だが街の名前なので女性。  
※ *celeber* は -er, -ris, -re 型の第三変化形容詞。-er だからと言って第二変化とは限らない。  
※ アエスクラーピウスはギリシャ語でアスクレーピオス。
15. 父の死の三年後に母は死んだ。
16. 最高の才能を持った男カエサルは、背が高く色白で両目は黒かった。  
※ ヨーロッパ人みんな白くね。
17. 我々は有名な戦争で戦った。
18. おお、人々の希望の当てにならぬことよ！
19. あの家は高く売れたが無価値だ。
20. 生活費はかつて安かったが、今は商品は昔より高い。
21. 私は君に、逆境の中では平静さが大きな力を持つということを納得してもらいたい。
22. ゲルマン人の女性たちは上腕と下腕をむき出しにしていた。  
※ *nūdae* まで読んで全裸かと思った人は正直に手を揚げなさい。

## § 15

1. 我々にはこのことを達成するのに十分な金が無いと誰かが言うかもしれない。しかし、パトロンがあらゆる手段で我々を助けてくれるだろうと考えておこう。  
※ "Expectō patrōnum!!!" 「私はパトロンに期待します !!」
2. 親切に対して我々は両親に感謝を返そう！
3. 神々よ、私を友人たちから守りたまえ。敵たちからは私自身が私を守ろう。  
※ 自分の行為の願望は意志として訳出する方が自然かと。
4. 全ての民族が自身の法律を利用し、平和を享受し、義務を果たすことができますように！

5. 自分の親切を自慢するな！
6. 我々の先祖のことを覚えていよう！  
※ *memini* は基本的に完了形で用いられる動詞であり、*meminerimus* は単に接続法にずらしただけ。
7. 皆が私を見捨てた。何をしようか？どこへ向かおうか？  
※ 第三、四変化動詞は能動態において接続法現在と直説法未来の一人称単数が同形。  
※ *sē vertere* は熟語。
8. クラウディアは真実を話したと、一切の疑いなく断言しておこう。
9. アテナイの住人達はテーセウスをもう長いこと待っており、そして願っている。「テーセウスがミーノータウルスを倒していれば良いのだが」と。
10. 病人たちは庭へ担架で運ばれよ！  
※ 日本語の受動態命令法は被動作主の意志が介在している必要がありそうなので、ここは普通に能動態的に（病人たちを庭へ担架で運べ）訳してしまった方が自然な表現になる気がする。
11. 君が私のところへ来てくれたら良かったのだが。
12. 街が略奪にあったと人は信じたかもしれない。
13. もし君がいないのなら何も楽しくはないだろう。  
※ 英語の仮定法を思い出すと良い。
14. もし君がいなかったら私は助からなかつただろう。  
※ 受動態の接続法過去完了。接続法は時制を見誤りやすいので注意。
15. 私はカエサルを殺さなくて良かったのだろうか？
16. 誰も軽蔑してはならない。
17. これらは確かに間違いかもしれないが、不道徳では絶対にない。
18. 小さな牛は大きな牛から耕すことを学ぶべきだ。
19. 自分にされたくないことを他人にするな。
20. 嘘をつくことは醜いということを含めて誰が敢えて否定するだろうか？
21. 市民を導く者は、徳において他の誰より優れているべきだ。
22. 不幸な運命を辛抱強く耐えよう。

## § 16

1. マールクスは友人に、なぜ自分を信じないのか尋ねる。
2. 誰がローマを作ったのか私に教えてくれ。  
※ローマ神話によれば軍神 Mārs とトロイアの末裔 Rhea=Silvia の子 Rōmulus だそうです。
3. ユーリウスがいつ彼らを訪ねるのか、友人たちは知らない。
4. 父は母に、息子がもうすぐ戻るだろうかと尋ねた。
5. ヘルウェーティイー族はローマ人たちの防塁を突破できるか試した。  
※ Helvētīi の名はスイス連邦の国名コード CH(Cōnfoederātiō Helvētica)に残っている。
6. 私の考えが良いと君が信じているかどうか、私に書いて知らせてくれ。
7. 材料無しに家が建てられることはできないということは疑い得ない。
8. 嵐によって船が岩場へと投げ出されないように、水夫たちは神に祈る。
9. カエサルは兵士たちに、荷物を一か所に運ぶよう命じた。
10. 君は何故、友人が君を助けないのではないかと恐れているのだ？  
※この文には直接関係無いが、metuō は第三変化動詞で語根完了であるため、三人称単数で現在形と完了形が同形 (metuit) であることは意識しておくが良い。語根完了幹は第三変化動詞に多いのでこの手の動詞は割とある。
11. 敵に攻撃を仕掛け彼らの不法行為に復讐するため、将軍は軍隊と共に河を渡った。  
※これ dux はカエサルで flūmen はルビコン川なんじゃないですかね。だとするとこの直前に「賽は投げられた (Ālea jacta est.)」があるんですが。
12. 私は悲しみにこれ以上書くことを妨げられている。  
※「悲しくてもう書けない」とかで良い気がします。
13. アリオウストゥスはカエサルの下へ行くことを拒んだ。
14. ゲルマン人達は武器で戦うことを拒まなかった。
15. ソローンは債権者たちに、債務者たちを奴隷として売ることを禁じた。  
※ギリシャ語の-ōn はラテン語では-ō に変換されることが多い。
16. 急げ、急げ。そこへ、君が行きたいところへなるべく早くたどり着くために。  
※ festīnō と properō の違いは調べてもよく分かりませんでした。  
※ prius は辞書には単独の副詞として載っているが、形から分かるように比較級形容詞 prior の副詞形なので、quō+比較級の構文。  
※ eō は後ろの関係節の先行詞。
17. 陣営はもう少しで敵に包囲されるどころだった。
18. 非常に低い身分に生まれた者たちが最高の荣誉にたどり着くということはしばしば起こる。  
※絶対最上級。日本語の「さいてー」みたいなアレ。

19. 武勇によって征されえないほどに面倒なものは何も無いとハンニバルは考えた。  
 ※ virtūte の ū の長音記号が誤植で抜けています。  
 ※最後が possit と接続法現在になっているのは、ここも従属節の中だからか或は不変の真実なので。  
 ※多重否定文で考え出すとかなり面倒ですが頭空っぽにして文脈で判断すると分かっちゃうのが何とも。
20. 砦には負傷していない兵士は一人もいなかった。
21. キケローが追放地にいた時、友人アッティクスへ手紙を書かずに過ごした日は殆ど無かった。  
 ※接続詞 cum の用法は次の章でやるんだけどな…  
 ※ amīcus は同格の名詞っぽいですが、本来この語は形容詞なので訳し方は色々あると思う。というか本来ラテン語に名詞と形容詞の区別は無かった。
22. あまりに人が多かったので誰も自分の連れを見分けられなかった。  
 ※ suōs が具体的に何を指しているのか分からないが、文脈的に連れとか荷物とかなんじゃないですかね。
23. 旅人たちから、どんなことについても彼らがそれぞれ何を聞いたのか尋ねるというガリア人たちの習慣があった。  
 ※ quisque は旅人を指す。原文は恐らくガリア戦記四巻四節。改変されて読みにくくなってる気しかしない。
24. 被告人は共謀者の名を挙げるよりはあらゆることに耐えることを選んだ。  
 ※カンマで区切られているが potius quam で英語の rather than と似た意味を持つ。

## § 17

1. 春が近づいてきたのでハンニバルは軍を冬の宿営地から引き払った。  
 ※時間の cum で訳すと違和感。
2. 春が近づいていた丁度その時ハンニバルは冬の宿営地から出発した。
3. 法務官や執政官に任ぜられた者は皆、それ以前により下位の官職に就いていた。  
 ※普通に「～任ぜられた者はいなかった」でも良いでしょう。
4. 父が戻るまで私は家にいた。
5. ローマ人たちの軍隊は友軍の救援を期待しながら敵の襲撃に耐えた。
6. 若干のトロイヤ人たちは、ギリシャ人たちが勝利したのち破壊された街から移住した。
7. 君が何も言わないのは、これが真実であると認めているということだ。
8. 君が恵まれている限りは、君には多くの友人がいるだろう。  
 ※形容詞が修飾対象と離れているのはラテン語ではよくあること。他の訳し方も可能だが。

9. 新しくより良いものが準備できるまでは、古いものを壊してはならない。  
※ *habeō*+完了受動分詞はやがて活用で代わる完了表現となって子孫の言語に伝わる。
10. 最高の逃げる機会が与えられた時でさえ、ソクラテースは牢から逃げなかった。  
※ *nē quidem* の処理が正直よく分からない。
11. オルペウスが歌うときはいつも、木や石が近寄ってきた。
12. 我々は話し合いながら散歩したものだ。  
※ 未完了過去なので習慣のように訳すのが良いでしょう。
13. 愚者は過ちを避ける間に反対の過ちへと走っていく。
14. ポンペイウスは軍隊の中の彼が最も信頼している一隊がひどく怯えているのを見るや、戦列を引き下げ自身も砦へ向かった。  
※ *sē conferrō* は熟語。  
※ *-que* は追加の語群の先頭の語の語尾に付くので、ここでは”~*et sē in castra contulit.*”と同じ。
15. 都会の市民たちの暮らしは、特に贅沢な暮らしが彼らに好まれていたために、しばしば腐敗していた。
16. ローマ人たちが戦争に向けて準備できていなかったのに対して、マケドニア王ペルセウスは万全の体勢にあった。
17. ソクラテースは、牢から簡単に脱出できたのにそれを望まなかった。
18. 我々が生きようにするのは不死の神々の務めであり、我々が良く生きようにするのは哲学の義務である。  
※ *philosophiae* のあとに *mūnus* が略されている。
19. ソクラテースは何かの罪を犯したからではなく、権力を持つ人たちの気に入らなかったために死刑になった。
20. 私には君を信用しない理由は無い。
21. マンリウスは、息子が彼の命令に従わないと言って息子を殺すよう命じた。
22. 都合よく使者たちが到着した。
23. 新人のキケローが執政官に選ばれたことに、貴族たちがカティリーナを恐れていたことが表れている。  
※ *eō* は *quod* 以下の先行詞で、動作主もしくは手段の奪格。  
※ *homō novus* は先祖に高位官職者のいない執政官のこと。新卒の若者というわけでもなければ類人猿の分類でもない。
24. 水を都市に引いて国家に貢献したので、アッピウス＝クラウディウスに名誉と栄光が与えられた。  
※ アッピア街道を作らせた人。街道 (*via*) が女性名詞なので *Appia* になっている。
25. 君が無事に戻ったので私は君にお祝いを言う。

## § 18

1. 我々はしばしば望まないことをするよう強いられる。しかしもし全ての人が何でも望むことをするならば人という種は短い期間で消滅するだろう。
2. 満足していれば幸福な人生を送るだろう。
3. たとえ万人が騒ごうとも私は私の考えることを言おう。
4. もしキケローがカティリーナの陰謀を暴かなかつたら、国家は滅んでいただろう。
5. もし彼が何か持っていたなら、与えなければならなかつただろう。
6. もし病気でなかったのなら君に手紙を書いたのだが。
7. たとえ君が裕福であろうと、君は貧しい一人の人ほど裕福ではないのだ。この人が自身の運命に満足してさえいれば。  
※日本語の慣用構文に近いものがないので各自で工夫してください。
8. たとえ全ての労働が無駄であったとしても、我々は落胆せずによいよう。
9. ローマ人たちは、たとえ幸運の女神に見捨てられようと、武勇に全ての希望をかけていた。  
※大文字から始まる抽象名詞は概念の擬神化。女性名詞なら女神。
10. 要するにキケローは非常に有名な演説家だった。
11. 彼らは幸運以上に勇敢に戦った。  
※「彼ら」が強かったのは運ではなく勇敢さ故に、ってことですかね。よく分らん。
12. 彼はあたかも自分が関わっていたかのように自慢する。  
※すっごくどうでも良いけど intersum は英語の interest の語源。
13. カエサルは可能な限りの強行軍で外ガリアへ侵攻した。  
※二つのガリアはラテン語でも日本語でも呼び方がめちゃくちゃ多い。  
※忘れがちだが maximus は magnus の最上級。  
※ magum iter は熟語。
14. 時には富が大きくなるほど欲も深くなる。  
※ est の省略はよく起こる。
15. ウェルギリウスは自身の詩をホメーロスと似た方法で作った。
16. ガリア人たちは道中でローマ人たちを襲い、荷物を奪った。カエサルはそれを見て隊列を敵の方へ向けるよう命じた。
17. カエサルは甚大な被害を受けた船の素材を他の船を直すために用いた。  
※関係文の先行によって先行詞 nāvēs が関係節内に取り込まれている。恐らく、本来複数属格 nāvium として主節内にあるはずが関係節に取り込まれたことで格表示が失われたため、eārum で強調している。
18. カエサルは軍隊を率いて来たが、その軍隊は彼が非常に信頼していた。  
※なんでこの章にあるのか謎。

19. いくつかの事態の達成を受けて、カエサルは夜中に出発し朝には敵の陣営に到着した。  
 ※正直よく分からん。ググって出てきたイタリア語訳と講義での解説が一致したのでこれで良いのかな。  
 ※ Quibus が Aliquibus の短縮形だと考えれば分かりやすいがこの章にある意味が不明。
20. ポンペイユスはローマ帝国にとって光であったが醜い最期を迎えた。
21. 神のおかげで私は今の私である。  
 ※大文字で始まる Deusってことはキリスト教の唯一神ですかね。
22. カエサルはゲルマン人たちが陣取っている場所の向こうで陣営を守るよう命じた。

## § 19

1. カエサルは敵たちに、彼らのもとへ逃亡したと主張する奴隷たちを要求した。
2. ある人にとって驚異的と思われることを無価値と考える人も多い。
3. 逃れることを望まない人が一人もいないような悪というものがある。  
 ※ quae は関係節内で effugere の目的語。
4. 私は受けた親切を忘れるような人間ではない。
5. 君は何故我々に怒っているのか。君は我々から多くの恩恵を受けたというのに。
6. 我々は自分自身のためには決してしないような多くのことを、友人たちのためにする。
7. 元老院議員たちはハンニバルが生きていれば自分たちは必ず裏切りを受けるだろうと考え、プルーシアス王からハンニバルを引き渡してもらうよう依頼するための使者をビーテューニアに送った。
8. 敵たちは槍が届かないほどに遠く離れてはいなかった。
9. ポンペイユスはルーキウス・ロースキウスこそ任務を託してカエサルのもとへ送るのに相応しいと考えた。
10. もし君が死ぬ運命にある人々だけが哀れであると言うのであっても、君は生きている人を誰一人除外していない。
11. アリオウストゥスはカエサルが一切の歩兵を連れてこないこと、双方が騎兵隊と共に来ることを要求し、他の条件では行かないと言った。  
 ※ quem は恐らく aliquem の短縮形。  
 ※ググって確信したけどラテン語の訳文はドイツ語やイタリア語でネットに転がっていることが非常に多いので、ラテン語やりたい人はそっちもやっとくと良いかも。
12. アリオウストゥスはカエサルに、勝者が敗者に望むままに命令するのが戦争の法であると答えた。
13. ソークラテースの弟子たちは師が強情を捨てるだろうと信じていた。

14. ファブリキウスは、ピュルロス王の医者が王に毒を盛ると約束しているので、王に陰謀に気を付けるよう忠告した。
15. 私は君に、もし質問されたら君は何と答えるだろうかと尋ねる。
16. もし君がそれをしたなら後悔していただろうことを私は疑わない。
17. 友人が私に、もし病気でなかったなら私に手紙を書いて、彼の妹が彼の友人に嫁いだことを知らせるつもりだったという手紙をよこした。  
※手紙書いてるじゃん。
18. 父は我々に、満足していれば幸福な人生を送るだろうと言った。  
※ちなみに vincō の未来分詞は v"i"ctūrus。
19. 先生は生徒に、もし彼らが熱心に励んでいれば彼から美しい本を贈られるだろうと言った。
20. もし彼が病気でなかったならもうとっくに私に手紙を送っているだろうことは疑う余地が無い。